

広島県三次市三和町方言の原因・理由表現

日高 水穂

(1) はじめに

ここでは、広島県三次市三和町方言の原因・理由表現について報告する。調査項目は、「原因・理由表現 調査項目一覧」に掲載した全項目である。

広島県三次市三和町は、広島県と島根県の県境付近に位置する。断定辞の「ジャ」、アスペクト形式の「ヨル（進行相）」「トル（結果相）」、ウ音便形（「オータ（会った）」など）の使用など、中国地方の方言の特徴を多く備えた方言が用いられている。原因・理由表現については「ケー」を用い、その他の形式で優勢なものは見受けられない。以下で報告する調査結果においても、「から」の使用できるほぼすべての用法において、「ケー」が用いられている。

(2) 調査の概要

話者は、広島県三次市三和町羽出庭（旧双三郡三和町羽出庭）出身、1942年生まれ（調査時64歳）の女性（筆者の母）である。19～25歳の間、鳥取市、大阪市、広島市に居住し、以降、山口県旧玖珂郡錦町、柳井市に居住している。出身地を離れて長い間、他の地域の方言の影響はあまり受けていない。日常的に方言色の弱いことばづかいをしているが、原因・理由表現に関しては、当該方言で使われる「ケー」をよく用いるため、この調査に関しては適切な話者であると判断した。

調査日は2007年2月15日、調査場所は秋田市の筆者の自宅である。

調査方法は、まず、話者自身に調査項目の方言訳を調査票に書き込んでもらい、それを見ながら、筆者が話者の出身地の方言で言う可能性のある別の表現などについて確認した。適切な方言訳が確定したのち、例文を読み上げてもらい、音声を録音した。以下の方言文は、この録音データの聞き取りに依っている。

(3) 文字化について

・方言文は、カタカナで表記する。この話者の発音は、ほぼ通常のカナ表記で表せる範囲のものである。特殊な表記としては、末尾がオ列音の名詞に助詞「ワ」が後接する場合、「ワ」が弱化して発音されるため、「シゴトァ（仕事は）」「ソトァ（外は）」のような表記をする。

- ・文末の「？」は上昇音調を示す。疑問文であっても上昇音調を取らないものには「？」は付さない。
- ・当該方言の独特な表現には注を付す。ただし、西日本方言で広く用いられる（よく知られた）表現には注を付さないものもある。
- ・「×」を付した文（形式）は、話者がその文（その形式を含む文）が不自然であるとしたものである。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因（接続調査を兼ねる）

1-1-1 マイニチ アメガ フルケー センタクモンガ カワカンネー。

1-1-2 マイニチ アメジャケー センタクモンガ カワカン。

1-1-3 テンキガ イーケー センタクモンガ ヨー カワクワ。

注：西日本方言では「良い」は「エー」になることが多いが、この話者は「エー」を用いず「イー」を用いる。

1-1-4 コノ ヘヤワ シズカジャケー シゴトニ シューチューデキル。

1-1-5 ユーベ オーアメガ フツタケー ジメンニ ミズタマリガ デキトルヨ。

1-1-6 コドモジャケー ワカランカッタ。

1-2 行為の理由（後件のモダリティ制限の調査を兼ねる）

1-2-1 タイチョーガ ワルイケー シゴトオ ヤスムコトニ シタンヨ。

1-2-2 タイチョーガ ワルイケー キョーワ シゴトオ ヤスモー。

1-2-3 ヨミチャー クライケー イッショニ イノー。

注：「帰る」の意味で「イヌ」を使う。「イノー」は意向形。

1-2-4 アカチャンガ ネットルケー シズカニシンサイ。

1-2-5 アカチャンガ ネットルケー シズカニシテクレンカネ。

1-2-6 アメガ フルケー カサー モツテイキンサイヨ。

1-3 判断の根拠

1-3-1a ホシガ デトルケー アシタモ イー テンキニ ナルジャローネー。

1-3-1b A「アシタモ イーテンキニ ナルジャローネ。」

B「ドシテ ワカルン。」

A「ホシガ デトルケーヨ。」

1-3-2 ヒダリテノ クスリユビニ ユビワオ ハメトツテジャケー ケッコン シトツテンジャネ。

注：「ハメトツテジャケー」「シトツテンジャネ」は、それぞれ「はめていらっしやるから」「してい

らっしゃるのだね」の意味。「シテジャ」は「していらっしゃる」に当たる尊敬語形。

1-3-3 セキヤー デルシ ネットモ アルケー カジョー ヒータンカモシレン。

注：この話者にとって「熱っばい」という表現が日常的な使用語ではないため、「ネットモアルケー（熱もあるから）」とした。

1-3-4 サッキ シンブンハイタツノ オトガ シタケー ゴジオ スギタンジャローネー。

1-4 発言・態度の根拠

1-4-1 アブナイケー コノ カワジャー アソビンサンナ。

1-4-2 カジョー ヒクト イケンケー アツギオ シテ イキンサイ。

1-4-3 キョーノ シゴトァ ゼンブ スンダケー ハー イノー。

1-5 理由を表さない用法

1-5-1 スグ モドツテクルケー ココデ マットツテーネ。

1-5-2 イチドデ イーケー ピラミッドニ ノボツテミタイ。

1-5-3 オネガイジャケー オカネオ カシテクレンカネエ。

1-5-4 クルマオ ヨンジャルケー スグ ビョーイン イキンサイ。

1-5-5 ツクエノ ウエニ オイトルケー ワタシノ サイフ トツテキテクレンカネー。

注：「置いてある」に相当する形式は「オイチャル」だと思われるが、この話者は「～シチャル」を使わないという。この文脈では「オイトル」が適当とのこと。

1-6 原因・理由節の述語用法（XはYからだ）

1-6-1 A「キブン ワルイ。」

B「アンナニ エット ノムケーヨ。」

注：「エット」は「たくさん」の意味。

1-6-2 A「キョーワ デパートガ コンドルネー。」

B「ニチヨービジャケージャローネ。」

1-6-3 A「サイキン タローノ キゲンガ ワルインヨ。」

B「アンタガ ジローノ コトバツカリ ホメルケージャナイン。」

1-6-4 A「サイキン タローノ キゲンガ ワルインヨ。」

B「ワタシガ ジローノ コトバツカリ ホメルケーカネー。」

1-6-5 A「サイキン タローノ キゲンガ ワルインヨ。」

B「ジローバツカリ ホメラレルケーカモシレンネ。」

1-6-6 A「ヒッコシノアト パソコンノ チョーシガ ワルインヨ。」

B「ソリヤー ハコブトキニ オトシタケージャナイカネー。」

注：「オトシタケーニチガイナイ」は言いにくいとのこと。「～ニチガイナイ」は、この話者が日常的に使う表現ではないことによると思われる。

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

1-7-1-1 コンヤワ アメガ フルソージャケー ハヤメニ イノー。

1-7-1-2 コンヤワ アメガ フルラシーケー ハヤメニ イノー。

1-7-1-3 コンヤワ アメガ フリソージャケー ハヤメニ イノー。

1-7-1-4 ドーモ ネットガ アルミタイジャケー ハヤメニ イノー オモウンヨ。

1-7-1-5 アメガ フルカモシレンケー カサー モッテキタンヨ。

1-7-2 推量表現

1-7-2-1 アメガ フルジャローケー カサー モッテイキンサイ。

1-7-2-2 ヤマジャー エット ユキガ フッタジャローケー ナダレガ シンパイジャネ。

1-7-2-3 タイシタ アメニヤー ナランジャローケー カサー モッテイカン。

1-7-2-4 ソトア サムイジャローケー アツギオ シテ デカキョー。

1-7-2-5 コノブンジャー アシタモ アメジャローケー エンソクワ チューシン ナルジャローネー。

1-7-3 丁寧表現

1-7-3-1 チョット ハナシガ アリマスケー コケー キテツカーサイ。

注：「ツカーサイ」(=ください)はこの話者が日常的に使う表現ではないが、出身地の方言としては自然な表現とのこと。

1-7-3-2 キケンデスケー カケコミジョーシャワ ヤミョージャーナイデスカ。

1-7-3-3 サトノ リョーシंगा タズネテキマスケー キョーワ スコシ ハヤメニカエラセテモラッテモ イーデショーカ。

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

1-8-1-1 ココデ チョット マットッテ。 スグニ モドッテクルケー。

1-8-1-2 チョット ゴセンエン カシテエ。 ゲツマツマデニワ カエスケー。

1-8-1-3 エキマデ ムカエニ キテーネ。 シチジニヤー ツクケー。

1-8-2 終助詞的用法

1-8-2-1 アトデ モー イッカイ デンワ スルケー。

- 1-8-2-2 チョット デカケテクルケド オヤツ プリンガ レゾーコニ ハイットル
ケ~~ー~~ネ。
- 1-8-2-3 アナタノコトア ケシテ ワスレンケ~~ー~~。
- 1-8-2-4 オトーチャンニ イーツケチャルケ~~ー~~ネ。
- 1-8-2-5 ゴジマデ エキマエノ キッサテンニ オルケ~~ー~~。
- 1-8-2-6 チョット スーパーマデ カイモンニ イッテクルケ~~ー~~。
- 1-8-2-7 ヒミツオ バラシタラ タダジャー オカンケ~~ー~~ネ。

2 「のだから」の用法

2-1 「から（ので）」との相違

- 2-1-1a ジカンガ ナイケ~~ー~~ {イソイダンヨ/イソゴ~~ー~~/イソギンサイ}。
- 2-1-1b ジカンガ ナインジャケ~~ー~~ {×イソイダンヨ/イソゴ~~ー~~/イソギンサイ}。
- 2-1-2 テンキガ イー {ケ~~ー~~/×ンジャケ~~ー~~} サンポニ イッタンヨ。
- 2-1-3 マイニチ アメガ フル {ケ~~ー~~/×ンジャケ~~ー~~} センタクモンガ カワカンヨ。
- 2-1-4 ユーベ オーアメガ フッタ {ケ~~ー~~/×ンジャケ~~ー~~} ジメンニ ミズタマリガ
デキトルネ。

2-2 意味・用法（接続調査を兼ねる）

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

- 2-2-1-1 コンナニ ガンバッタ {×ケ~~ー~~/ンジャケ~~ー~~} コンドア ウマクイクヨーネ。
- 2-2-1-2 ダイジナ ハナシオ ショール {×ケ~~ー~~/ンジャケ~~ー~~} コドモア アッチー
イットキンサイ。
- 2-2-1-3 コッチャー シンケン {×ジャケ~~ー~~/ナンジャケ~~ー~~} カラカワンデヨー。

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

- 2-2-2-1 ワカイ {×ケ~~ー~~/ンジャケ~~ー~~} イツカイヤ ニカイヤノ シツパイデ クヨク
ヨ シンサンナ。
- 2-2-2-2 ジュケンセー {×ジャケ~~ー~~/ナンジャケ~~ー~~} モーチートア シンケンニ ベン
キヨー シンサイ。
- 2-2-2-3 セツカク リューガク スル {×ケ~~ー~~/ンジャケ~~ー~~} チヤント ベンキヨー
シテキンサイヨ。

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

- 2-2-3-1 ジカンワ マダ ジューブン アルンジャケ~~ー~~ ユックリ シテッテーネ。
- 2-2-3-2 チャンスワ マダ アルンジャケ~~ー~~ ゲンキュー ダシンサイ。

2-2-3-3 モージキ タイイン デキルンジャケー モー チョットノ シンボージャー。
注：文末の「ジャー」は同意要求の形式（「じゃないか」に相当）。

2-2-4 倒置

2-2-4-1 カラダニヤー キーツケンサイヨ。 モー ワコーワ ナインンジャケー。

2-2-4-2 ジブンデ キメンサイヨ。 ハー コドモジャー ナインンジャケー。

2-2-4-3 ソリヤー シンパイ スルヨーネ。 オヤナンジャケー。

2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 ワタシャー ゼツタイ カレト ケッコンスンンジャケー。

2-2-5-2 コッチガ アマイ カオオ スリヤー スグ チョーシー ノルンンジャケー。

2-2-5-3 アノ オトコト キチャー ホンマニ サケグセガ ワルインンジャケー。

3 接続詞「だから」の用法

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1 サイキンワ マイニチ アメガ フル。 ジャケー センタクモンガ カワカンノ
ヨー。

3-1-2 ハー イヨー デル ジカンノ サンジップンマエヨ。 ジャケー ハヨー オキ
ンサイ。

3-1-3 スグ モドッテクル。 ジャケー マットッテーネ。

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A「サイキンワ マイニチ アメガ フルネー。」

B「ウン。 ソイジャケー センタクモンガ カワカンデ コマツトルンヨ。」

3-2-1-2 A「キョーワ アメガ フルソージャネ。」

B「{×ソイジャケー／ソイジャー} カサー モッテイキンサイ。」

注：この文脈で「ソイジャケー（それだから）」や「ジャケー（だから）」は不自然とのことであり、
「ソイジャー（それでは）」に言い換えた。

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

3-2-2-1 A「タイヘンジャー。 アメガ フツテキター。」

B 1「ジャケー ドーシタ ユーン。」

B 2「ジャケー ナンナン。」

B 3「×ジャケー？」

注：「だから？」のような上昇音調で問い返す表現は、「ジャケー」では不自然とのこと。

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

3-2-3-1 A「ジコデ デンシャガ オクレトルソージャネ。」

B「ソーカ。 ジャケー ミンナ マダ コンノジャー。」

3-2-3-2 コレジャケー レンキューニ デカケルンワ イヤナンヨ。

3-2-3-3 アージャケー レンキューニ デカケルンワ イヤナンヨ。

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

3-2-4-1 ヘージャケー ヤメトケー {ユータンヨ/ユータジャロー/ユータジャー}。

3-2-4-2 ジャケー スナー ユータジャー。

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

3-3-1-1 A「サッキ タノンダ シゴト チャント ヤットイテーネ。」

B「ウン。 キョージュニーヤ ヤルケー。 イマ チョット イソガシューテ デキンノヨ。」

A「アシタマデニヤ ヤットイテーヨ。」

B「ジャケー キョージュニー ヤル ユーヨルジャー。」

3-3-1-2 A「キョーワ オネガイガ アッテ キタンヨ。」

B「ナンカネ？ ハナシテミンサイ。」

A「モノスゴ タイジナ コトナンヨ。」

B1「ジャケー ハナシテミンサイ。」

B2「ジャケー ハナシテミンサイ ユーヨルジャー。」

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1 A「サッキ タノンダ シゴト ヤッテクレタ？」

B「エッ？ ナンジャッタカイネー。」

A「ジャケー ゴゼンチュー タノンドッタ アノ シゴトヨーネ。」

3-3-2-2 A「キョー チョード タナカサンニ オータンヨ。」

B「ドノ タナカサンカイネ。」

A「ジャケー キノー ハナシトッタ サンチョーメノ タナカサンヨネ。」